

「白馬岳高山植物群落保護林」 における保護事業について

中信森林管理署 白馬森林官 ○ ^{みやもと}宮本 まどか

要 旨

北安曇郡白馬村白馬山国有林の高山地帯は、我が国屈指の高山植物の宝庫であり、白馬岳高山植物群落保護林に指定されています。貴重な動植物の保護事業として、創意工夫を凝らしながら「ライチョウ等希少野生動植物種保護管理事業」及び「グリーンパトロール事業」を行って来ましたので、その内容についてご紹介します。

はじめに

白馬岳高山植物群落保護林は、白馬山国有林の猿倉から小蓮華山、白馬鑓ヶ岳までの標高1,500mから2,933mの高山地帯を中心とした1,281haの区域です(図-1)。この区域は、「白馬連山高山植物帯」として、大正11年に天然記念物に、昭和27年に特別天然記念物に指定され、昭和32年には中部山岳国立公園特別保護地区にも指定されてきました。

白馬には、雄大なパノラマ、日本三大雪渓の一つである白馬大雪渓、特異な地質が織り成す貴重で豊富な高山植物が広がるお花畑があり、多くの登山者が訪れます。

私たちは、原生的植物群落や、絶滅が危惧されるライチョウ等を保護するため、下記のような保護事業を行って来ました。

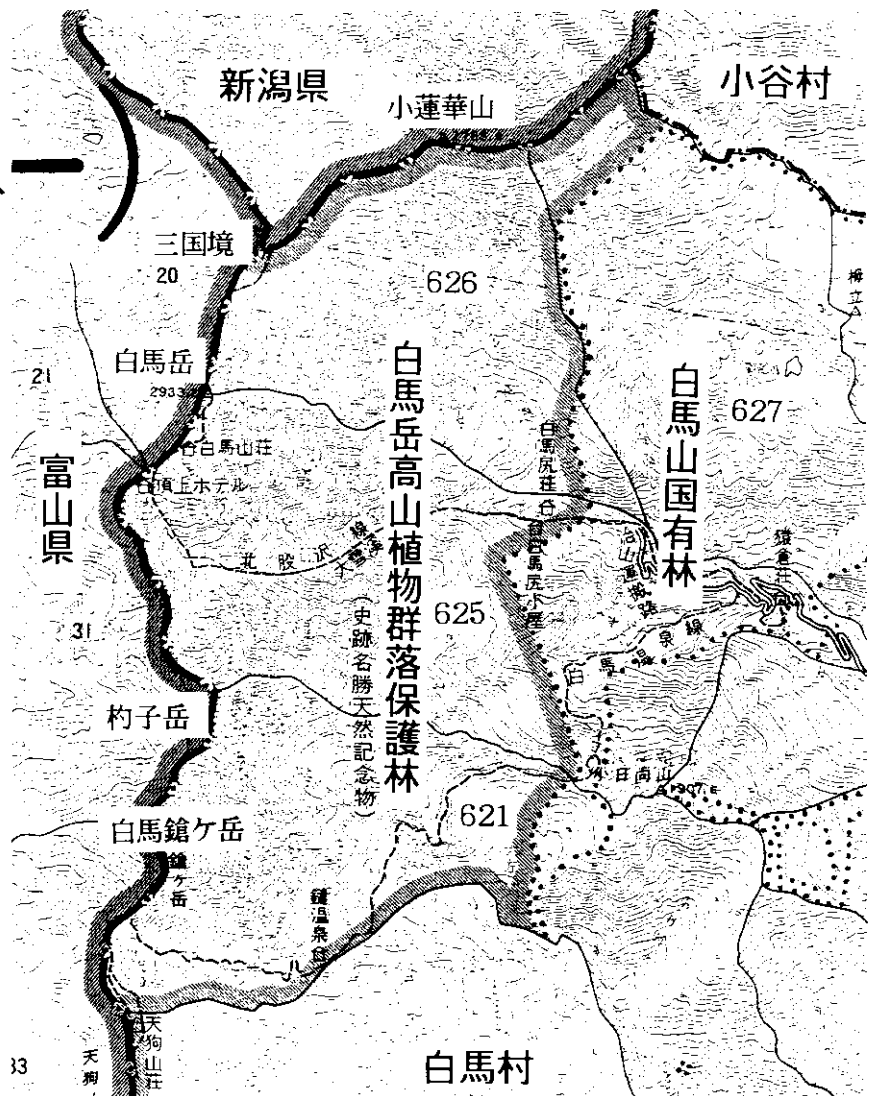


図-1

- 1 「ライチョウ保護事業」…ライチョウが安心して生息できる環境を作る。
- 2 「グリーンパトロール事業」…高山植物の保護や登山道周辺の美化活動等を行う。
- 3 「植生復元事業」…裸地化した部分にライチョウの餌となる高山植物を発生させる。
- 4 「ライチョウ固体数調査」…ライチョウの生息数を推定する。

1 ライチョウ保護事業

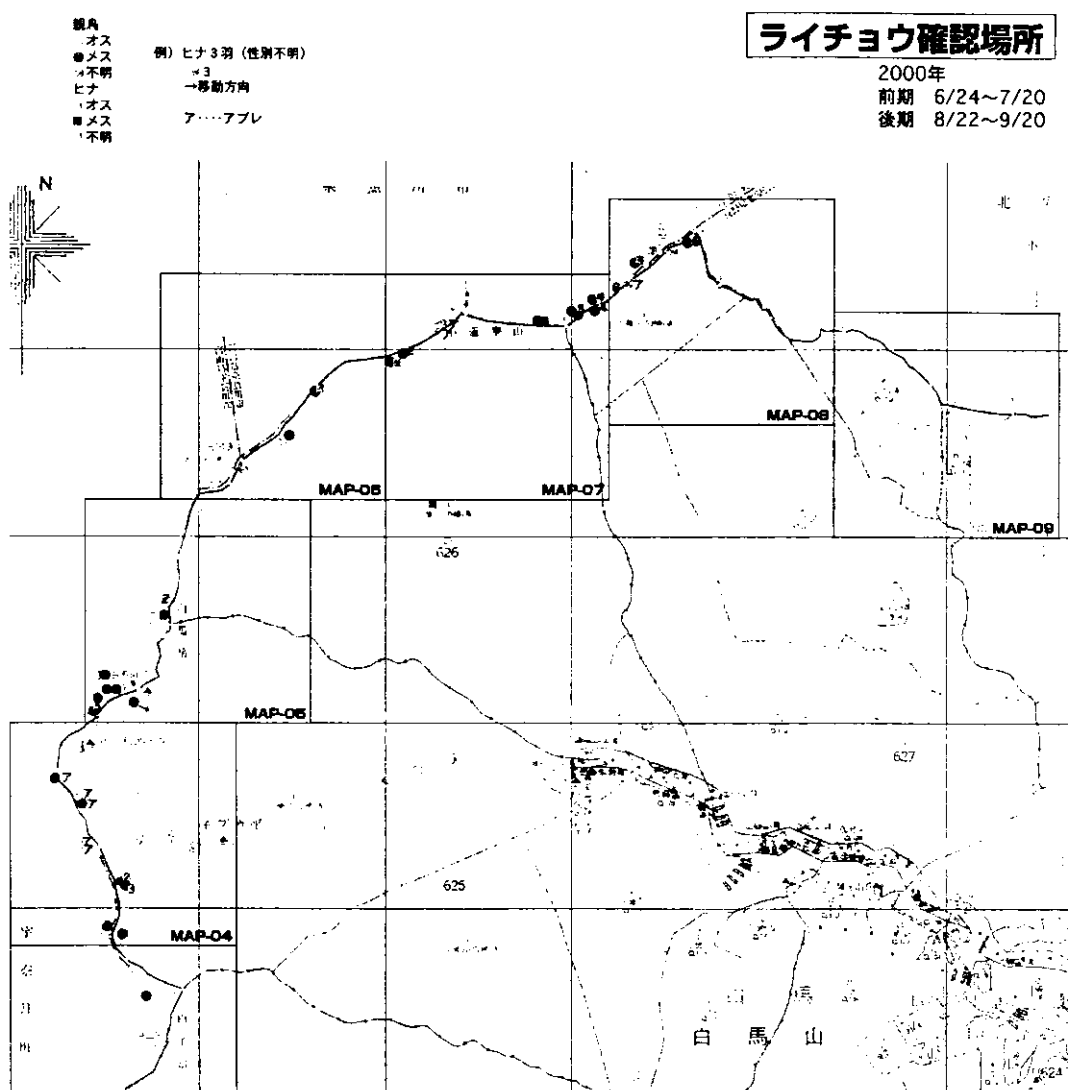
ライチョウが安心して生息できる環境を作ることを目的とし、平成6年度から始めました。現在は白馬村振興公社に委託しており、事業期間は6月下旬から7月上旬までの「前期」と、8月中旬から9月下旬までの「後期」に分けています。事業内容は、保護林内の巡視を行いながら、ライチョウの生息場所や、ハイマツの荒廃状況の観察等を行っています。また、ライチョウの生息地域の環境を保護するための保護柵や看板の設置もしています。

巡視結果は、「日報」や「雷鳥確認表」に記録しています。ライチョウは、尾根筋、お花畑、ハイマツ地帯で数多く確認されています(表-1)。現在は保護林内で観察されたものだけを集計しています(それ以外はメモ書きによる)が、実際には稜線を挟んだ反対の富山県側で発見する場合があります。ライチョウは管轄区域に関係なく「縄張り」を作ることから、このような管轄区域外の集計方法を、今後は考えていく必要があります。

今後は、ライチョウの活動時期に合わせた巡視を増やしたり、日報等の観察記録の充実を計ること等を考えていく予定です。

白馬で長年に渡ってライチョウの保護のための巡視や観察を行うことは、今後におけるライチョウの保護の在り方や生態を解明する上で、重要な基礎資料となります。また、高山植物の保護にも役立っています。

表-1



2 グリーンパトロール事業

白馬岳での高山植物保護への取組みは古く、昭和11年から始まっています(表-2)。様々な経緯を経て、現在のグリーンパトロールは、「北アルプスを美しくする会」の白馬村事務局と、中信署が行っています。中信署は白馬村振興公社に委託しています。事業の運営は、3者で話し合いながら進めています。

表-2

| ～グリーンパトロールの歩み～ | |
|----------------|--|
| 大正11年 | 「白馬連山高山植物帯」天然記念物に指定 |
| 昭和11年 | 監視員詰所新築 常駐の監視員によるパトロール開始 |
| 昭和26年 | 常駐の監視員によるパトロール再開 |
| 昭和27年 | 「白馬連山高山植物帯」特別天然記念物に再指定 |
| 昭和32年 | 中部山岳国立公園特別保護地区に指定 |
| 昭和33年 ～44年 | 大町営林署職員の交替出張パトロールと、臨時職員による巡視 |
| 昭和38年 | 「長野県高山植物保護対策協議会」結成(会長:長野県副知事) |
| 昭和40年 | 高山植物保護対策協議会県下5地区による活発な活動開始 |
| 昭和45年 | グリーンパトロール隊活動開始(大町営林署) |
| 昭和52年 | 「北アルプスを美しくする会」(以下「北ア美会」)が大町市、白馬村、小谷村及び観光関係者により設立 |
| 昭和55年 | クリーンパトロール隊活動開始(北ア美会) |
| 昭和63年 | グリーンパトロール隊とクリーンパトロール隊が合併 新たな「グリーンパトロール隊」活動開始 |
| 平成4年 | 大町営林署は松本営林署に統合 |
| 平成7年 | 松本営林署(平成11年中信森林管理署に改称)白馬村振興公社に委託 |

(1) 事業内容

グリーンパトロールは、7月中旬から8月中旬までの一ヶ月間、白馬連峰で、高山植物の保護のための巡視や、違反者への注意、登山道周辺のゴミ拾い、葱平ねぶたいらに在る避難小屋のトイレの清掃等を行っています。また、高山植物を踏み荒らされないように、植生保護ロープも張っています。その外に登山客から、花の名前等を聞かれる事も多く、観光案内的な役割も担っています。

しかし、ここ数年応募者数が減ってきて、グリーンパトロールが出来るのか心配するような状況になってきました。そこで、募集方法の見直しや、隊員の働き甲斐のある環境づくりを目指して、運営する3者(白馬村、白馬村振興公社、中信署)で話し合いを繰り返し、少しずつ改善してきました。

今年度から、募集方法の一つにインターネットを加えました。その結果、昨年は15人の応募者が今年度は26人にまで増えました。ちなみに、26人中採用者は15人です。

言われた事をやらされるのではなく、自発的にグリーンパトロールに参加する気持ちを持ってもらうため、隊員の自主性を尊重するよう、合議制によるパトロールを実施してきました。毎日「業務日報」を記入していますが、その外に「高山植物の開化状況」や来年のパトロールの参考になるように、細かい仕事内容(雪解けに合わせてロープを張り変えた事等)を書いた「日誌」も記入しはじめました。

パトロール後のミーティングでは、毎日1時間以上も皆で話し合っていました。全国各地から集ま

った隊員が多いにもかかわらず、白馬の事を真剣に考えていて、聞いている私は何度も勇気づけられ、反省する事や勉強不足な事が多いのに気づかされました。

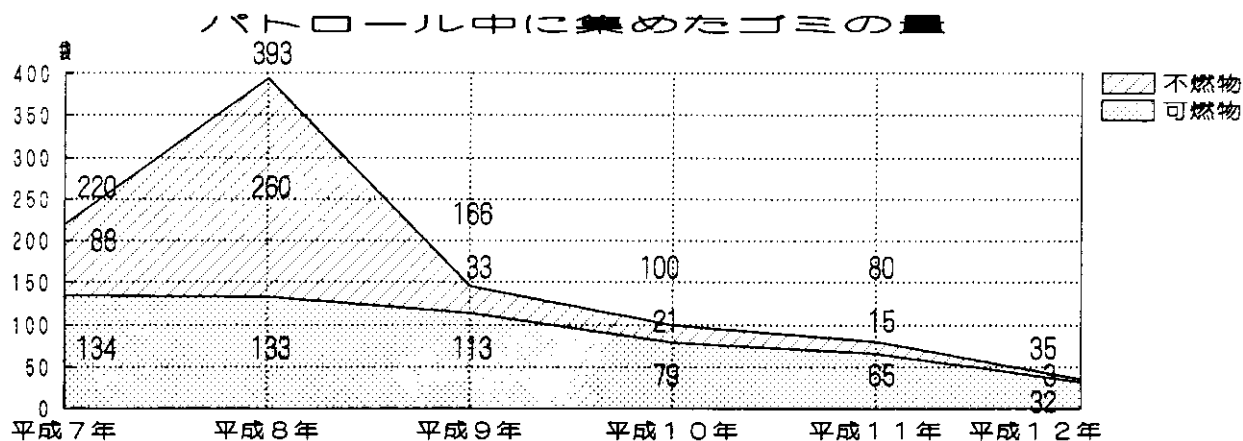
自主性を尊重するパトロールを実施した結果、グリーンパトロール隊の解散式では、隊員全体の意見として、建設的な提案が出されました。また、「来年も参加したい。」という声が沢山聞かれ、皆明るい顔で帰って行きました。隊員は下界に戻ると、道端のちょっとしたゴミが非常に気になってしまうそうです。

また、隊員の思い出づくりの一環として文集も作り始めました。以前は、富山県側のグリーンパトロールと接する機会が少なかったため、昨年度から山小屋で連絡会を開いています。お互いに情報交換が出来て、パトロール活動に反映されたため、好評でした。

(2) グリーンパトロールの実施状況

下表(表-3)は、過去6年間のゴミ収集量をグラフ化したものです。1袋の大きさは、約75cm×65cmです。ゴミの量は年々減少しています。最近落ちているゴミで目立つ物は、飴などの包み紙みかんの皮等の生ゴミ、トイレに使うティッシュです。生ゴミやティッシュは、土に還ると思っている人が多いようです。また、ゴミが多く落ちている場所もほぼ決まっており、今後の啓発活動の課題になっています。

表-3



白馬岳では登山客から「ゴミが少ないですね。」という声が多く聞かれますが、未だに(写真-1)のような事も有ります。巡視中に見つけたものですが、周りの高山植物には踏まれた跡がないので、お花畑で休憩した人間が捨てたゴミではないようです。おそらく登山道に捨てられたゴミを、何かの動物が運んで、残飯をあさった(お弁当の中身は空っぽでした。)ものではないかと考えられます。

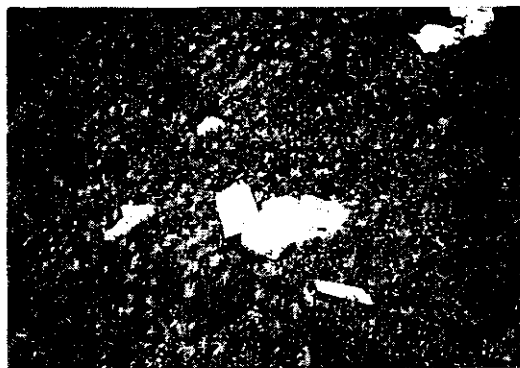


写真-1

平成12年度の注意件数の内容(表-4)をみますと、「立ち入り禁止区域への侵入」が最も多くなっています。これは高山植物の中に、さしたる罪悪感もなく入る人を注意した数が殆どです。中には、写真を撮る為に手前の植物を摘んだり、踏み付けたり…。注意されても無視し、隊員が居なくなるのを見計らって踏み込む人が増えています。特に、コマクサの咲いている崩れやすい礫地では、コマクサを取り囲むように道がついているところもあります。

最近「その他」も増えてきました。これは、高山植物を保護する為の、グリーンロープに掴まって登るお客さんを注意したものが殆どです。高齢の登山者が多くなり、登るのがきつくなって、つい、グリーンロープに掴まってしまう気持ちは、十分に理解できるのですが、脆い土に鉄杭を打ち、そこにロープをに張っているだけなので、掴まると危険なため注意しています。

ペットの持ち込みは3件ありました。ペットの持ち込みを未然に防止するため、登山道や国有林入り口に手製の看板を置いています。

高齢登山者の増加が、マナーや法律を知らない登山者の増になっており、山の関係者からも危惧する声も聞かれますし、そういった場面にも出会います。今後は、高山の生態やマナーを教えたり、高山植物保護のPR方法などを、更に考えなくてはならないと思います。

これからも、より良いグリーンパトロールが出来るように、関係者と協議しながら取り組んでいきたいと思っています。

3 「植生復元事業」

ライチョウの餌となる高山植物を復元することを目的としています。信州大学の土田教授を中心に、平成10年度より行っています。最初の2年間で調査を行い、平成12年度より、復元作業を始めています(写真-2)。作業期間は、8月27日～9月6日。白馬山荘から下ったところで行いました(図-2)。

作業方法は、現地の種を採取し植生荒廢地に撒いた後、麻製のネット(土に戻り易い素材を使用)



写真-2

表-3
平成12年度違反行為注意件数

| 行為別 | 処理別 | 件数 | 人数 |
|----------|-----|-----|------|
| 無許可採取 | | 0 | 0 |
| 摘み取り | | 6 | 6 |
| 踏み荒らし | | 10 | 16 |
| 禁止区域への侵入 | | 627 | 922 |
| ゴミの投棄 | | 3 | 3 |
| いたずら | | 0 | 0 |
| 指定外キャンプ | | 0 | 0 |
| ペット持込み | | 3 | 6 |
| 鳥獣への危害 | | 0 | 0 |
| 高山蝶の捕獲 | | 0 | 0 |
| その他 | | 161 | 210 |
| 合計 | | 810 | 1163 |

で覆います。平成13年度も継続して行う予定です。

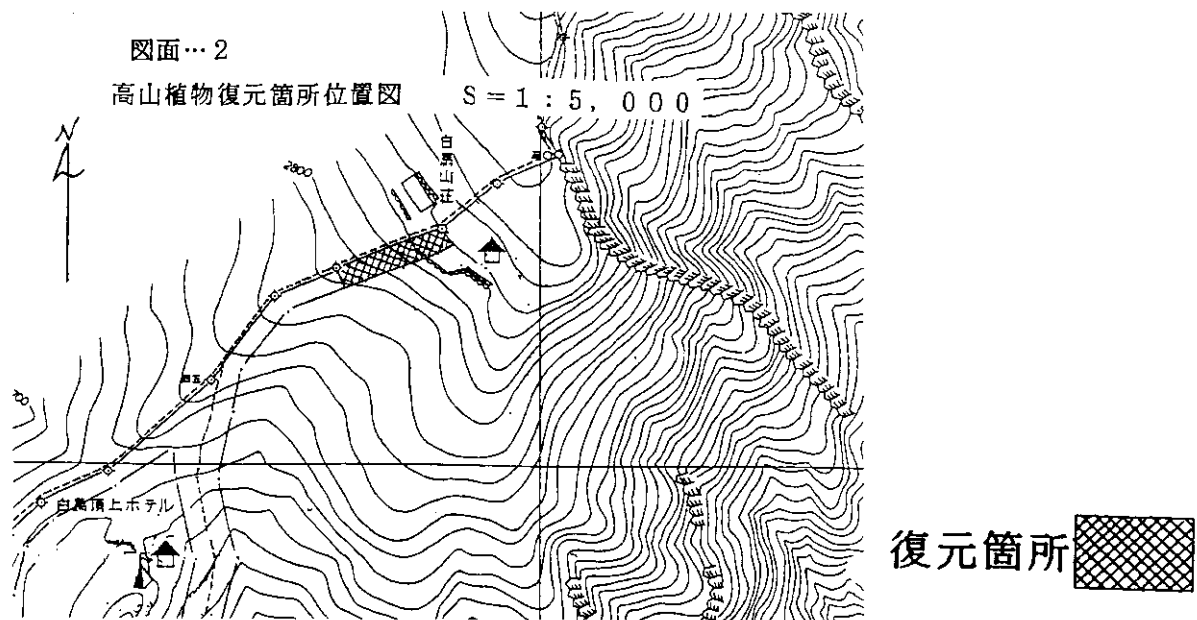


図-2

4 「ライチョウ個体数調査」

信州大学の中村教授を中心として、6月25日～29日まで調査しました。ライチョウの生息数は、20年前と比べて、ほぼ一定の範囲内であるという結果が得られました。

おわりに

巡視などの保護事業は、成果が目に見えにくいものですが、個体数調査の結果でも分るとおり、長年地道に行われてきた活動が「白馬の自然を守っている」と言えます。しかしながら、山の関係者が皆で協力していかなければならない問題は、沢山あります。社会の情勢に合わせて変化してきた保護事業は、今後も創意工夫を凝らしながら、変わっていかなくてはならないのでしょうか。これからも、私たちは関係機関と連携をとりながら、白馬の保護事業に取り組んでいきたいと思ひます。

最後に、白馬村をはじめ白馬村振興公社、保護事業にご協力していただいた皆様に感謝を申し上げます。